

次号予告と今後のご案内

2018年2月号 vol.4 no.1

特集

マインドフルネスを医療現場に活かす

企画: 恒藤 暁 (京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻)

mind (こころ) と ful (満ちた) と ness (状態) から成る言葉、「マインドフルネス」。近年、脳科学や行動科学の分野において多くのエビデンスが蓄積されつつあり、第三世代の行動療法として心理学の分野でひろがっています。患者はもちろん、医療者のケアにおいても大きな力を発揮するこのマインドフルネスは、これから医療現場に何をもたらすのでしょうか。その理解と実践に迫ります。

2018年7月号 vol.4 no.2

特集1

がん治療の皮膚障害アトラス ——その鑑別とマネジメントのポイント

企画: 宇原 久 (札幌医科大学附属病院 皮膚科)

分子標的薬の登場以降、頻繁に遭遇するようになった副作用としての皮膚障害。しかし、臨床での実際の所見は皮膚科専門医でなければその鑑別と判断に苦慮することしばしば……。そこで、本誌では、CTCAE Gradeにも言及しつつ、読んで使える、見て使える皮膚科専門医監修による「皮膚の重症度別アトラス」をまとめます。

特集2

上手な予測と予防策で快適な治療を実現しよう

抗がん薬の副作用対策トリビア

企画・監修: 石黒 洋 (国際医療福祉大学 腫瘍内科)

後藤知之 (滋賀県立成人病センター 消化器内科/外来化学療法室)

副作用対策に関する研究は世界中で数多く行なわれ、ユニークな着眼点からエビデンスや研究結果が報告されています。日々実践されるルーティンとしての副作用対策だけでなく、こうした研究結果も臨床現場で応用することで、減量や投薬中止とはまた違った、「予測して予防する」副作用対策の可能性が浮かび上がってきます。本特集では、副作用対策としての効果のエビデンスがあるトリヴィアルな副作用対策を紹介します。

2018年10月号 vol.4 no.3

特集

目標設定と予防的介入からみた

進行・再発がんのトータルケア

企画: 大島和也 (大阪国際がんセンター 整形外科 (骨軟部腫瘍科))

天羽健太郎 (聖路加国際病院 整形外科 足の外科診療担当)

必ずしも「Cure」を目指すことができるわけではない進行・再発がんに対するケアは、がんに関わる医療者にとって極めて大きな課題です。本企画では、目標設定と予防的介入をキーワードに、患者の希望に寄り添った医療を実現するためのチームビルディングのほか、骨転移、むくみ、しびれなど、重要な臨床症状への対応を実践形式でまとめます。

カンファレンス取材のお願い

あなたの施設のカンファレンスを「Cancer Board Square」に掲載しませんか？
本誌では、がんに関わるカンファレンスの取材先を募集しております。

- ・ Cancer Board
- ・ 診療科横断型のグランドカンファレンス
- ・ Death Conference
- ・ CPC
- ・ ナースによる振り返りカンファレンス
- ・ 若手の症例検討会

など、公開可能な活発なディスカッションの場がございましたら、編集室までぜひご連絡ください。

03-3817-5714 (編集室直通)

cbs@igaku-shoin.co.jp

*これら特集テーマについては変更の可能性がありますをご了承ください。